新聞　（第3種郵便物認可）

丸新志鷹建設

ネパールで発電所工事

受注額10億円 小水力を改修

小水力発電所改良工事の一環として建設している作業員用宿舎
＝ネパール西部のバジャン郡

丸新志鷹建設（立山町芦峅寺、志鷹新樹社長）は、JICA（国際協力機構）の無償資金協力事業としてネパール西部2カ所にある小水力発電所＝㊟＝の改善工事を受注した。計約10億円で落札し、2月から工事を本格化させる。立山周辺の砂防ダム工事をはじめ山岳地帯の建設、土木、河川工事などで培った技術と現地での工事ノウハウが評価された。昨夏には東京事務所を設立しており、南アジア地域における受注獲得に向けた営業力強化を図る。

（経済部次長・高松剛）

丸新志鷹建設は、地元の立山町芦峅寺とネパールのクムジュン村との交流をきっかけに、同社のネパール人技能研修生が帰国した後の受け皿としてネパール支店を1992年に開設した。小規模工事で実績を重ね、2008年以降は給水事業やかんがい事業など国家プロジェクトに相次いで参入。同国での実績は、隣国のブータン王国での受注にも結び付いている。

JICAによると、ネパール西部の農村地域の電化率は約45％。電力事情が逼迫（ひっぱく）し、既設発電所の改修が課題とされる。今回の入札で、受注した小水力発電所は出力はそれぞれ200キロワット。稼働から20年以上が経過し、発電効率が著しく低下しているという。

工事現場は標高1500～1800メートルの高地で、同社は現地の下請け業者と協力し発電設備や取水口の整備・改修を行う。工事用道路や作業員用宿舎の建設を進めており、来月から本格的な掘削が始まる見通し。工期はいずれも来年5月までを予定する。

同社は売上高のうち、海外が6割以上。さらなる事業拡大に向け、昨年7月に東京事務所を新設した。2人体制で、情報収集やJICA事務所との連絡窓口としての役割を担う。2020年東京五輪に向け建設投資の活発化が見込まれる首都圏の営業拠点としての活用も検討する。

ズーム

小水力発電所　一般河川や砂防ダム、農業用水を利用した出力の小さい水力発電所。全国小水力利用推進協議会（東京）によると、世界的にはおおむね出力1万キロワット以下だが、国内では「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法」（RPS法）が小規模発電と位置付ける1000キロワット以下を指す。大規模開発を伴わないため環境への負荷が少ない上、太陽光や風力に比べ気象変化の影響が小さく、安定した発電が可能なことが特長とされる。